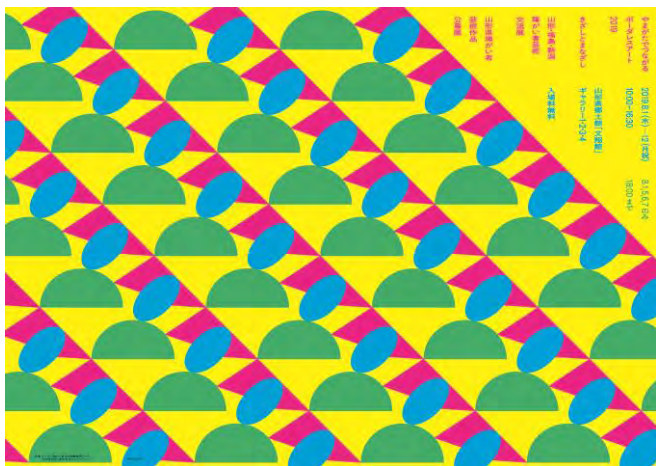


公募展  
企画展

●やまがたでつながる ボーダレスアート2019』～きざしとまなざし～  
山形・福島・新潟 障がい者芸術交流展／やまがた障がい者芸術作品公募展  
会場：山形県郷土館「文翔館」3階 ギャラリー1・2・3・4  
会期：8月1日～12日  
来場者数：1,836人  
表彰式、ワークショップ3回、トークイベント1回

相談・発信

調査・発掘



表現の「きざし」と寄り添う「まなざし」をコンセプトにした公募展。



表現の「きざし」⇒鑑賞者の「まなざし」⇒その先に開かれた社会の「まなざし」へ

## ●やまがた障がい者芸術作品公募

応募点数:180点

入賞点数:きざしとまなざし賞1点、県知事賞1点、審査員賞3点、入賞23点



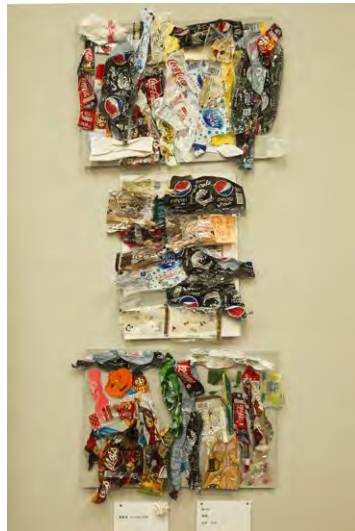
### キャプションにまなざしコメントを記載

いたずらの様子で、人が通るところに物を並べ、通る人とのやりとりを楽しまれる(?)ことができました。

その辺りにあるものを、そろえたり、つみあげて、通りにくくなるため、じゃまだなとも思いましたが、毎日色々で、なかなかおもしろい並べ方、風景だったので写真にとってみました。

重たいものも持ってきたり、パワーがすごいです！(支援スタッフ)

現場でいたずらはつきもの。問題行動として辞めるように強制することもある中、その行動を受け入れたことで作者の視点に立つ「まなざし」と、どんどん作風が変貌し面白さが増す作者の「きざし」。渾身のコラボ作品！ (審査員 ライラ・カセム)



## ●山形・福島・新潟 障がい者芸術交流展

会場：文翔館3階 ギャラリー4

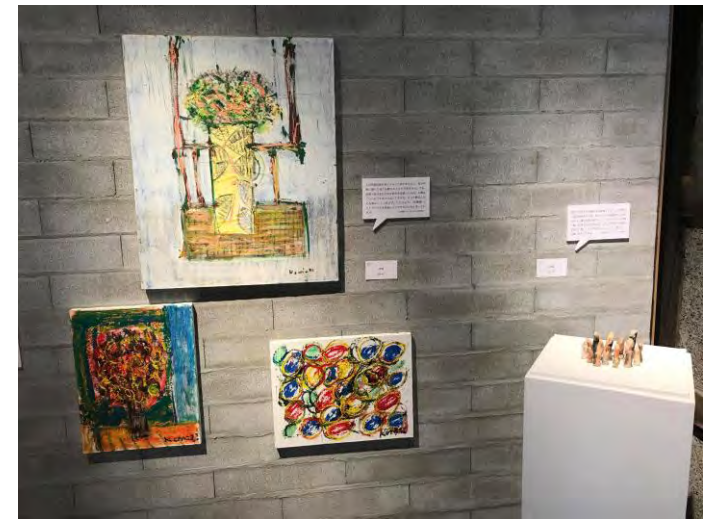
内容：各県のプロジェクトの紹介や作品と共に、支援者の言葉や作家のポートレートを展示。

山形：山形立泉荘の表現活動、ながいアートプロジェクトまちめぐり美術館

新潟：角地智史さん(写真家／アートディレクター)×田中仁さんによるプロジェクト

福島：社会福祉法人安積愛育園 はじまりの美術館 アーカイブプロジェクト ほか

出展者数：山形1名、福島2名、新潟1名



## ●福島、新潟に巡回

新潟：10月障害者アートフェスティバル(芸術作品全国公募展)

福島：12月「きになるひょうげん展」



# 『やまがたのきざしとまなざし』

8月1日(木)～9月27日(金)

来場者数:222人

出展者数:7名

相談・発信

人材育成

調査・発掘

作家と支援者の関係性に着目し、寄りそう人の目線から印象的なエピソードをピックアップし、作品と共に支援者の言葉や作家のポートレートを展示。

何気ない日々のなかにワクワクするような、表現のきざしをみつけるチカラ(=まなざし)がうまれることを目的とした。

